

とびひ（伝染性膿痂疹）

とびひ（伝染性膿痂疹）は、接触によってうつり、火事の“飛び火”のようにあっという間に広がる感染症です。
とびひは、水疱性膿痂疹と痂皮性膿痂疹の2種類あります。
今回は、乳幼児・小児に好発する水疱性膿痂疹についてお話します。

《水疱性膿痂疹すいほうせいのうかしん》

赤い水ぶくれができて、中から浸出液が出てくる、ジュクジュクが広がります。

このとびひは、黄色ブドウ球菌が原因で起こります。とびひのほとんどがこの水疱性膿痂疹になります。

あせも、虫刺され、湿疹などを引っ掻いたり、転んでできた傷に黄色ブドウ球菌が感染してとびひになります。

軽いかゆみを生じることはありますが、発熱などの全身症状は見られず、4~5日ほどで軽快していくことが多いです。

抗菌薬の軟膏を塗ってジュクジュクしている所や服の生地が当たるところはガーゼを当ててください。

症状がひどくなる場合は、5日ほど抗菌薬の内服を併用します。

☆とびひが広がる恐れがあるため、水ぶくれはなるべく触らず、つぶさないようにしましょう！

♪登園・登校の目安

基本的には、患部をガーゼできちんと覆って露出していなければ、登園・登校可能です。ですが、病変が多発していたり、広範囲にある場合は、他の園児・学童にうつす可能性があるため休ませたほうが良いでしょう。また、プールの塩素は症状を悪化させたり、触れることで他の人にうつす恐れがあります。特に接触やタオルの貸し借りなどでうつるため、治るまで入らないようにしましょう。

（プールの水ではうつりません！）